

平成26年 網走市議会
経 済 建 設 委 員 会 会 議 録
平成26年6月16日（月曜日）

○日時 平成26年6月16日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 行政視察の取りまとめについて
2. その他

○出席委員（6名）

委 員 長	佐々木 玲 子
副 委 員 長	小 澤 陽 平
委 員	工 藤 英 治
	栗 田 政 男
	古 都 宣 裕
	山 田 庫 司 郎

○欠席委員（0名）

○委員外議員（1名）

議 長	小田部 善 治
-----	---------

○傍聴議員（2名）

飯 田 敏 勝
高 橋 政 行

○事務局職員

事 務 局 長	佐 藤 明
次 長	吉 田 正 史
総務議事係長	岩 尾 弘 敏
係	菊 地 香 代 子
係	松 山 俊

午前10時00分開会

○佐々木玲子委員長 おはようございます。

ただいまより建設委員会を開催いたします。

本日の委員会は行政視察の取りまとめについてと、そのほかの案件として作況調査の実施についてを協議願いたいと思います。

まず行政視察の取りまとめについてですが、今年度の行政視察の取りまとめ方法については、4月30日開催の当委員会において、各委員がレポートを作成し、それを取りまとめることで決定をいただいております。

レポートを提出していただいた上で、委員会の中で皆さんからそれぞれ報告いただき取りまとめたいと思います。

それでは各委員より順次をお願いしたいと思います。

○小澤陽平副委員長 5月26日から実施しました今回の行政視察でございますが、初日、宇都宮市では自転車のまちの推進計画ということについて行政視察してまいりましたが、レポートに記載しているとおりでございますが、網走市との環境の違い、平坦な地形であったり、雨量、降雪量の違い、あと冬期の状況の違い、道路環境、自転車専用道路などの設置状況など、当市とは日常の足として使う自転車としては、大きな違いがあったと感じました。

しかし、網走市は雪が多い地域で、路側帯なども広く、今後路側帯などを自転車専用道路とすることなど整備に生かしていける課題だったと認識できた視察でございました。

また最後に、この網走市で2016年度に全国のサイクリング大会が開催される予定でございますが、観光との連携とスポーツの振興という点からも、自転車の魅力づくりを推進し、まちが一丸となって大会を成功させ、まちに対します波及効果に期待したいと思って視察を終えました。

2日目でございますが、しまだ大井川マラソンということで、本年から網走市でもマラソンスタートアップ事業を掲げて推進しているわけですが、そのような中でこのまちを視察先に選定して、内容も網走市で予定しているスペシャルエイドの設置ですとか、ゴールした後のイベントの併設など似ているところがあったので、よい参考事例になると感じました。

まだ網走市のマラソンスタートアップ事業並びに大会の準備については協議をしているところでございますが、その中でもボランティアの確保や多くの企業の協賛が必要だということなど、多くの課題があるところを認識した視察でございました。

最後に、山梨県山梨市でございますが、女子観光プロモーションということで、女性ならではの視点を観光施策に反映させていくということが一番でございましたが、特に、みずからプロモーションチ

ームを発足させたというところが、すばらしいと感じたところでした。

また、事業費ゼロ円ということで行っていました。やはり広告PRでは苦勞されているようですが、逆にそれが新聞の記事やテレビなどに取り上げられるというところの強みも生かして行っている事業と感じ、今の時代はお金をかけなくてもPRをしていけるという一つの事例を見て、いい視察となったと感じました。

以上で報告とさせていただきます。

○工藤英治委員 宇都宮市の自転車ですが、地域的な諸条件が自転車のまちとして旧来からある。その延長線上にあって、小澤副委員長の言われたように平たんなまち。そして積雪のないまち。そして行動の主体が常に自転車であった。その延長線。

ところが、網走市ではそういった距離的な問題、通勤、通学といったことも含めて、自転車を主とした交通体系が今の状況になかった。

その中で、自転車のまちとしての宇都宮市と、網走市は自転車だけの競技のためと、異なる点があるのかと。独自の網走市の自転車のまちづくりをせざるを得ないのかなと。

日々の自転車と違った形の、競技としての自転車のまちで分離されていくのかと、そのような感じをしてきました。

それから、マラソンの島田市、大井川マラソン。

これは網走市でも来年度にフルマラソンを軸にやろうとしている中で視察で、時宜を得た視察であったと思います。

特に理念とか売り、それらを網走市のマラソンにどのように生かすのか非常に楽しみなところを見ながら感じてきました。また皆さんと種々協議をできるような、参考になるいいものだったと思っています。

それから山梨市につきましては、この時代、国を挙げてといいますか、女性に参加していただかなければ、今後の国づくりも大変だという観点も一つにはありますし、やはり少子化時代に仕事をする人がどんどん減っていく中で、まちづくり、地域づくり、もろもろの社会活動も含めて、女性起業も含めて、女性にどんどん参加をしてもらう。そういう考えの中で、山梨市は観光という形からスタートしたようにも見えますが、今や女子観光プロモーション、そのチームそのものがまちづくりの脚光を浴びる中、中心的なものになってきているのではないかと。

と。

その観光プロモーションというチームの活動を含めて、今後はほかのことにもどんどん要望されていく、まちの中心をつくる、女性の力を広めていけるモデル的なものになっていっていると、そして将来なっていくのではないかと、そのような感じがしました。

網走市においてもそういったものが出てくること、出してもらうことの参考になるのではないかと、そのような気もしてきました。

○山田庫司郎委員 2人から今お話がありましたから、重なる部分もあるかもしれませんが、宇都宮市については、平たんな土地の利を生かして、従来から市民の2割ぐらいが自転車を利用しているという背景もあったのだと思いますけれども、環境、健康、スポーツ、観光の観点から推進計画をつくって積極的に進めていたということで、非常に勉強なつたわけですね。

ただ、網走市に置きかえたときに、半年雪があるということとか山坂が多いということも含めると、宇都宮市とそっくりというふうにはもちろんならないのだと思いますけれども、網走市に合った取り組みというのがこれから求められるのだろうと。

それで一番感心したのは、計画をきちんとつくって、その4つの柱を中心に具体的な目標を掲げて、評価を必ず継続的にしていって、どうなっている、こうなっているということもきちんとチェックをしながら、計画の進捗状況を確認しながらやっているということが非常にすばらしいと思ひまして、いろいろな計画もあるのですが、評価をしながらしていくということの視点をやはり持たなければならないだろうと感じてきました。

それから2つ目のしまだ大井川マラソンですけれども、交通規制が要らないというコースの特性がありましたから、ビギナーや女性ランナーも参加しやすいということで、優しいフルマラソンだと思ひてきましたし、特産品の展示販売、そして大会の打ち上げを通して、参加者と市民とが触れ合う交流の場も、盛んに自主的に取り組んでいただくと。

それで、御二人からもありましたけれども、来年は網走マラソンの開催で、今計画が上がってきています。心配りはもちろんですけれども、フルマラソンがいいのか、例えばいろいろな距離、3キロ、10キロとかそういう形もあり得るのか。それと、ボランティアの数や給水、給食のステーションのあり

方、特産品の展示販売、それから参加人数をどのぐらいに想定してやっていくのか、いろいろやはり課題があると思ってきましたので、そういう意味では非常に理にかなった視察だったかと私は思っていますので、網走マラソンに生かしていければと思っています。

それと、山梨市の女子観光プロモーションチームの関係ですが、いろいろ取り組みをされていて、それもお聞きをしてきましたが、私の率直な感想ということでここにも書かせていただきましたけれども、自主的にこの組織が立ち上がってきたということと、市役所側もプロモーションチーム側もお互いの立場を尊重しながら、余り近寄らない、また遠ざからないという一定のいい距離感をお互い持ちつつ運営してきていると思ひまして、それがメンバーの皆さんの顔やお話を聞いても、片意地を張らないで楽しみながら取り組んでいるという視点も、非常に自然体でよかったかと、このように思っております。

市役所も必要があれば別なのかもしれませんが、特に予算措置をしないでいろいろある助成制度や補助金制度を独自で探しながら取り組んできているということに御苦勞もあるのだと思ひますけれども、非常に納得がいった部分がありました。

行政というのは、縦割り行政とよく言われますけれども、いい面もあるのですが、またその欠点部分もあるわけで、ここの山梨市は確かに観光に特化はしていましたが、女性という視点とその横の連携が人のつき合いの中で動き出してきていたということに、非常に興味と期待を持って帰ってまいりました。

これは、本当に私の希望で、どうなるかはわかりませんが、最後に書かせてもらったのは、こうした取り組みの中から女性職員の能力向上と、仕事に対する熱意も含めて生まれてくることによって、ひいてはすばらしい女性の管理職や、いってみれば市長まで誕生することもありうるだろうと。このようなことの期待も含めて聞かせていただいたということで、非常に参考になったということで報告にかえたいと思ひます。

○古都宣裕委員 主には紙に落としたので割愛してお話ししたいと思います。

皆さんの話に出たように、栃木県宇都宮市のサイクリングロードなどを生かしているやり方を見た感じでも、まず地域性として雪の降らない地域と雪の

降る地域ということで、まずもって自転車の普及率、活用率が全然違うというところ。あと、観光の視点でいうと、ハードカバーがついたA3、2枚分ほどの大きさのマップをミウラ折りというやりかたでコンパクトに持ち運びしやすいようにできたということで、これは観光のマップ等に生かせるのではないかという部分では参考になったと思ひました。

次に、大井川マラソンでは、今後網走市でオホーツクマラソンを計画している参考という部分では、基本的にこれから計画している基本計画等々と酷似した部分もあり、大いに参考にさせていただける部分はあったのではないかと思ひました。

最後に、山梨市観光プロモーション。こちらでは女性の視点からの観光への取り組みということで、現地に行った結果、予算組みがされていないということで、ボランティア的で成果も何も求められないということで、基本的には成果というものが目に見えてはこない部分ですけれども、基本的に女性の視点というところで、ニーズ把握をしなくてもある程度、一定の中心に至らなくても、ある程度捉えることはできるのかという部分で、その辺も網走の観光においても積極的に取り入れていくべきで、発足まで至らなくてもある程度の意見集約等々を積極的に行うことで、これは取り入れることができるのではないかと思ひました。

最後に、取りまとめというところで書かせていただいたのですが、現地視察を今まで私は1期目で4回行かせていただいていますけれども、その中でも視察候補地の選択についてはもっと精査に時間をかけるべきであると重々感じましたし、その効果等々を見て、現時点で昔とやり方は変わっていないかと思ひますけれども、今インターネットなどの情報端末の発展がある中で、情報収集がある程度昔よりは可能になった中で、以前のようにただ現地に行けば全てが勉強になるというのではなく、もう少し、もう一步踏み込んだ視察調査というのが必要になってきているのではないかと思ひます。

単に現地を見て勉強、調査できましたという時代ではなくて、さらに次の段階に入って、いかにまちに反映させるかという観点を持っていった上で、その結果が求められている時代になってきているのではないかと私は感じました。

○栗田政男委員 私も皆さんと同じように四日間、宇都宮市から島田市、山梨市と行政視察に参加をさせていただきました。

宇都宮市は皆さんのほうから出ていたように、自転車という一つのエコ文化といいますか、公共機関ではないのですが交通手段として、特に本州の都市部というか都会では非常に発達している。これからは見直される文化であろうと。それを交通のシステムに組み込むということと、道路もそれを含めたインフラ整備をしているということは非常にすばらしい内容であり、形だけではなくてしっかりとしたインフラ整備を進めているということは評価に値するだろうということを感じました。

また、二次的ではありますが、本来は私どもの当市においても、場合によっては場所によってそういう地域をモデル的に設けることも、多大なる費用をかけなくても可能なことなのだとのこと。

また、そういう余裕のあるまちづくりというのが、今後当然都市計画の中で求められるかということを感じてきました。

イベントに関しましては、地域性とかいろいろなことを鑑みると、当市においては少し厳しいのかという部分を感じ、ロードレース等の大きな大会については、なかなか当市主催でやるのは厳しいのかという結論に達しました。

島田市のマラソン事業ですが、大井川という平たんな河川敷を国の事業で活用して、すばらしいランニングコースができ上がっていました。

それを活用しての、市としての一大イベントということで、だんだんに盛況を帯びているということで、皆さんからお話が出ていたように、当市においても今後計画されるマラソンに非常に参考になる、内容についても非常によく似ているのではないかという気がしました。

レポートの中でも書かせていただきましたが、ぜひとも私たちだけではなく、理事者側の人たちも開催するにあたり、近々の話なので、何カ所かのマラソンの実態を現実レポートとしてしっかりと参加報告する必要もあろうし、検証していかないと、なかなかこのマラソンというのはいろいろ見えない部分がありますので、そのことについては今後の協議会でお話しされると思いますけれども、そういうことを真摯に考えさせられました。

ただ、市内をずっと見て歩いたときに、ホテルキャパは非常にないし、多分違う市町村に泊まる。ただ、交通インフラが東名高速が2本入っている、古い東名高速、新しい新東名も入っているということで、それを考えるとすごくアクセスがよくて、い

なれば名古屋から、東京から、静岡からも泊って参加をするということが可能なのかということ考えたときに、当市においては経済効果は当然必要なことですから、できるだけ市内の宿泊施設を活用していただいて、そこに重点を置いて活用していきたいと考えさせられる事例です。

いずれにしても、このマラソンについては非常に重要なことなので、今後もしっかりと調査していきたいと思いました。

最後の山梨市ですが、当初形だけのものかと私個人的には思っていたのですが、行ってみていろいろなお話を聞いたときに、実は内部の人たちの内部から吹き上がるような力によって構成され、それを市長の英断によって組織として、活用しているということで、非常にびっくりするほどエネルギーが秘められた企画だったと感じました。

それは女性だからということではなしに、ふだんの業務をしながら、しっかりと将来を見据えた、まちを愛する、ホスピタリティあふれる観光事業の、中心になるのではなくて支援をしていくということは、非常に心洗われる思いをいたしました。

とかく行政というのは比較的形だけのものが多いのですが、本当に内部的な、自分たちの時間も犠牲にしながらしつかりとしたおもてなしも含めた観光に対する意識づけ、それが女性ならではの心遣いではあると思いますし、女性だからどうのこうのと格別それを特化する必要はないと思いますけれども、非常にいい事業ですし、できれば当市においてもそういう環境ができ上がるような体質になっていけばすばらしいことであろうし、今後も注視していきたいということを感じた次第です。

総体的に感じたのは日程の問題です。

いろいろな皆さんの都合により、今回月末の視察になったわけですがけれども、やはりどこの議会も定例会前の忙しい時期に入るので、この設定については私たちは当然行政関係なのでいろいろな市にお伺いすることが多いのですけれども、そういう相手方の事情を考えたときに、今回のぎりぎりの日程では非常に相手方にも迷惑をかけますし、こちらの都合よりもむしろ向こうの都合を十分に考慮して視察はあるべきであると。そのほうがよりよい視察になると感じましたので、日程については十分にこれから検討する必要があると思います。

もう一つ、山梨市役所庁舎ですが、これは直接この視察とは離れるのですけれども、庁舎も多分NE

Cの倉庫か何かだと思うのですけれども、それを活用して、多分本庁舎だけではないと思うのですけれども、案外すごく機能的にすっきりと機能していたなど。そのような感じがしました。

時間がなかったのですが、議会も見させていただいて、18人で3委員会ということですから、ぎりぎり6人体制の委員会構成がされていました。議場も非常にシンプルですっきりとした内容ですし、その反対側には市長室、副市長室、その他が、効率的、機能的に配置されているということで、案外立派な仰々しい建物でなくても、しっかりとした箱といたしますか、倉庫といったら語弊あるかもしれませんが、改装して、1階のロビーその他も非常に雰囲気が良い、すばらしい市庁舎だったと感じました。これは蛇足ですけれども、その辺もつけ加えさせていただきたいと思います。

以上でございます。

〇佐々木玲子委員長 皆さんからの報告をいただきまして、私のほうからも一言。

まず宇都宮市ですけれども、網走市でも東アジアサイクリスト誘客をやるということが背景にあって、自転車のまちということで宇都宮市に行っただけですが、宇都宮市について一つ感じたことは、ギョーザのまち宇都宮というのも、いろいろな調査の結果、日本一冷凍食品のギョーザが売れているということを中心にして、売り込みを行ったという。よく町を調べている。

この自転車のこともそうです。市民の皆さんの自転車の利用度が非常に高いという背景のもとに、自転車のまち宇都宮という打ち出しをしたという。そういう意味では本当に自分たちのまちをよく知り尽くした上で、いろいろな政策を打っているというのは、私たちも参考にできるところなのかと。

あとは、宇都宮市の自転車道の整備については、相当精力的にやらなければならないことだろうと思うくらい、私たちが見た限りでは、本当にきめ細かに自転車道が整備されているというところに、交通整備という、道路の整備という点では見習うところがあると感じてきました。

次に、島田市の大井川マラソンですが、これもオホーツク網走マラソンというのを来年網走市もやるということで、参考になるところがあるのではないかと行きました。

実際に行ってみまして、最初のきっかけというのが静岡の空港が新しくできたということで、このチ

ャンスを逃すことはない。何とかこの空港ができたことを最大限に生かすことを考えようというのが、マラソン大会の取り組みにつながったと私は受けとめましたので、どういう機会にどのような政策を打ち出すかという意味では、網走市もいろいろな大きな公共工事等もありますし、また、どのようなチャンスを捉えてやっていくかという視点でやっていると、網走市も伸びていけるものがまだまだ政策として打てるものがあるのかと感じて帰ってきました。

最後に山梨市ですけれども、女子の観光プロモーションチーム、いまは短縮して女子プロと言われていたようですが、この発端となったのが、皆さんもおっしゃっていましたが、チームのリーダーである女性職員が観光課に配属されたときに、自分がある程度年齢がいったと。観光というのは本当にパワフルに動かなければいけない仕事だということで、自分に務まるのかという不安から熟慮した結果、女子でなければできないことをやろうという思いで、自分なりの企画を考えて、女子職員みんなの力を合わせて観光プロモーションをやりたい、そういうことを思いついて市長に企画書を出したところから、市長が即決でぜひやってみなさいということで、大きなバックアップをしていただきながらやり始めた。

そういう中で、当初、確か最初は5人と私は聞いていたのですが、7名とも書いてありました。そういう中から今15人までふえたということで、それぞれ所属が全部違う課の職員がそれぞれの所属の課長の理解を得て、さまざまな活躍をできるようになってきたということを知りまして、先ほどお話も出しましたが、行政は縦割りという弊害がある中で、この山梨市の女子職員は、横の連携が図れて、それを見守る男性の上司がいて、男性職員の応援があつてという、縦と横の連携が生かされている、いい方向性に行っている女子プロだなと感じました。

そして、やはりこの方たちもまず山梨市をどう売り出そうかというときに、自分たちのまちを知らないで売り込むことはできないということで、全員でそれぞれいろいろなところ、山登りをしたり、観光の名所といわれるところ、また、見落としているようなところ全てを見て歩いて、熟慮しながらいまに至っているということを知りまして、私たちもやはり、地元の間がが一番観光、自分の網走のまちの魅力をまだまだわかっていないという弊害を感じてお

りますから、そういう部分でもこの山梨の女子プロチーム、この内容的なものは、もっと皆さんにお知らせしながら、うちの市の職員だけではなくて、網走の女性の力を発揮できるような場を私たちのほうからも発信できればいいのかなと思いつつながら、非常にパワーを感じながら、また本当に男性職員の理解がないと女性の職員が活躍できないのだということを感じながら帰ってきました。今回はそれぞれ3市とも非常に意味のある、内容の充実した視察であったと、私は感じて帰ってまいりました。

以上、皆さんの一言ずつのコメントも含めて、レポートと調査概要添付の上、後日、議長宛てに調査結果を報告いたしたいと思っておりますけれども、以上でよろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

では、そのような形で報告をさせていただきます。

○山田庫司郎委員 報告は報告として、今の委員長のとめ方で私もいいと思うのですが、栗田委員からも出ていたのですが、できればこの所管、経済建設委員会として、マラソンについては改めて調査項目という位置づけをして、後ほど議論しますけれども、何回か委員会としても議論を重ねていく。また必要があれば、いろいろなことに取り組んでみるという方向性を今のこの委員会の中で確認できればと思うのですが、ほかの委員の御意見を聞いて、どうでしょうか。

○佐々木玲子委員長 今、山田委員から意見ありましたが。

○工藤英治委員 今回の報告ということではなく、網走マラソンの基本計画の話し合いをこれから持つわけですから、その中においていろいろな話ができれば、今山田委員の言われたような形になっていくか、その辺も含めて、今でなく、次の段階でいいのではないかと思います。

視察が終わるたびにちょっと掘り下げようとか、そういう部類でなく、たまたま今回これがあるから、大井川マラソンの視察をしたからではなく、やらせてもらったと思うのですけれども。

○佐々木玲子委員長 今、工藤委員からあったように、視察は視察として、またいろいろな議題が出てきたときにはしっかり議論をしながらやっていきたいという、そういう方向性でよろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

よろしく願いいたします。

○佐々木玲子委員長 それでは、次にその他の項目に移らせていただきます。

例年行っております作況調査の実施についてですけれども、農作物の作況調査を実施するかどうかをまず皆さんにお伺いしたいと思います、いかがでしょうか。

○工藤英治委員 例年やっているので、特別外す理由はないと思います。

○古都宣裕委員 例年やっているので、見ると等々が変わらないというのかもしれませんが、そもそも目的で、ただ育成状況を見ようかというの、果たして私たちにそぐうのかどうか。ひょうの被害があった場所を見ようか、特段変わったものがない限りは、そんなに毎回やるのが果たして正しいのかというのは私は疑問なのですが、皆さんはどのようにお考えでしょうか。

○佐々木玲子委員長 古都委員から育成状況を見に行くことが果たして毎年必要なのかという、皆さんの御意見を伺いたいというお話ですけれども、いかがでしょうか。

○山田庫司郎委員 今、古都委員から出ているという側面もあるのかもしれませんが、やはり所管の委員会としては、農作物がどういう形で今育っていて、これからどういうふうに行くのかというのは、それは個々の議員として行くことも可能ですからいいかもしれませんが、やはり所管の委員会としてきちんと見て、何かがあればきちんと議論をしたり対応したり対策を考えていかなければならないと私は思います。今農業の作物がどうなっているかという時期に、タイムリーに、所管の委員会として視察をして私は見るべきだと。

でき得れば、麦乾施設ができて見えてきていますけれども、今度集出荷の施設も新たにできて稼働しているわけですから、麦の流れを見てみるという側面も考えてみたり、何か新たなメニューを一つ入れる、二つ入れるという方法は議論の中でしていいと思いますが、私は基本的にはすべきだと、こういうふうになります。

○栗田政男委員 私も基本的には毎年すべきだと思います。というのは作況という言い方をしているので、農業の作物系の生産についての調査がメインになると思いますけれども、それだけではなくて施設その他も毎年変化するものであって、それに対する対応、例えば以前にも行ったパワーアップ事業で

いろいろな部分も行かないと書面を見ている限りでは、なかなか当市が行っている事業についても実感が湧かない。

現実に見る機会も、個人的にはなかなか難しいのではないかという気がしますので、ぜひとも経済建設委員会のメンバーは特にそういう部分をしっかりと把握しながら、市の情勢というのを把握する必要があります。

そこで古都委員がおっしゃる意味もよくわかりません。形骸化した上辺だけの視察であってはいけない。行く前に内容と現状もしっかり委員会の中でもんだ上で出発をして、その内容についてしっかりと把握してくるという中身の濃い視察にしてほしいという意味だと思いますので、そういうことも考慮しながらしっかりとやっていったらいいと思います。

○小澤陽平副委員長 私も調査自体というものは、個々の議員でもできますが、やはり委員会としてやることは必要であると認識しております。

例えば、建設中の現場の視察などは、個人的になかなか受け入れの関係もありますので、委員会として申し入れをして、古都委員が言うように目的を持って、自分たちが今それを視察することが必要だというものを選定して、行うべきであると感じております。

○佐々木玲子委員長 工藤委員からは特にないですか。

○工藤英治委員 なし。

○佐々木玲子委員長 そのようなことで古都委員、皆さんから意見をいただきましたが、どうですか。

○古都宣裕委員 皆さんも補足してはいたしましたが、私も最初に言ったとおり、全く必要がないのではなくて、しっかりと目的意識を持って、それをどう反映するかという観点から。

ただ、今生育状況が1日2日おくらせていて私その作物を見ても昨年と比べて1日2日の違いというのが正直わかるとも思いませんし、データとしてわかればいいことであって、見てわかるものとか、見て私たちが何かできるものというところをしっかりと見るべきで、その目的意識がしっかりとされている場合であれば、作況調査という現場を見るということは意味があることだと思いますので、それがなされるのであれば、作況調査を行ってもいいと思います。

○佐々木玲子委員長 それでは、今回の作況調査については、今、古都委員が中身のある、目的のしつ

かりしたものであればやるべきという最終的な答えをいただきました。

ほかの委員からは、ぜひやるべきだという意見のようですが・・・

○山田庫司郎委員 古都委員の言い方も十分理解するところはあるのですが、今までの作況調査が何も意味がなくて、目的意識を持っていなかったと捉えられたら私としては非常に遺憾です。

それはそれとしてやってきたので、新しい視点も含めてそして、古都委員の言うように事前にある程度知識も持って行ってみるとか、帰ってきたらしっかりと議論して意思統一していきましようということをお私は今までもしてきたつもりです。

だから、今までの委員会が全くそういうものだったというふうには私は認識していませんから、そこだけは誤解のないように委員長の整理をお願いしたいと思います。

○佐々木玲子委員長 今、山田委員から補足をいただきましたが、これまでの作況調査は決して中身のないものではない、しっかりと目的意識のあった調査だったということをおここで確認をさせていただきたいと思いますが・・・

○工藤英治委員 目的意識は違った目的になっていく場合もある。目的はこうで、これとこれとこれと見ようと合意して行ったとする。そういうことは決めて行っている。

ですけれども、一人一人、個人個人、自分としてはこれが目的ではないという人も参加していると思うのです。

ですけれども、行くことによって、現地の現場の人のいろいろな意見を聞いて、さらに認識を深める。こう思ったことも委員会として必要なことなので、目的が一人一人違う場合でもこれは仕方がないし、行かないことよりも行くことのほうが委員会として共通認識も持ったり、それから現場の方々のいろいろな多様な意見も知り得る。

そういう機会を今までもつくってきたのだから、これからもつくっていくことによって、委員会として何回も何回も行くことによって、知識というのは高まっていく。この作業も委員として大事なものであるということも認識していただきたいと思いません。

再度認識してもらいたく思います。

○佐々木玲子委員長 工藤委員から、これまでの視察というのは、目的意識だけでなく現場を見るこ

と、また知ること、そういうことも含めて委員会としてやっていくことが非常に重要だったという。

そういうことは改めて再認識をした上で、今回の作況調査を進めていきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

日程と内容等についてですけれども、これまで平成17年から25年まで行ってきた日程等を見ますと、7月下旬から8月上旬に行っております。

中身につきましては、それぞれその時々によって、麦乾施設ができたときは麦乾施設を見に行ったりだとか、平成21年ですと大雨の被害状況が非常にひどかったということでその周辺を見に行ったりとか、堆肥センターを見に行くだとか、それぞれその時々によって一番市の行政の関係で重要と思われるものを中心に見ていっているわけですけれども、きょうこの場で皆さんから作況の内容についてまで出にくいかと思っておりますが、今特に考えていることは皆さんおありでしょうか。

○**工藤英治委員** 所管の部署等の意見を参考にしながら、正副委員長、そして委員から個人的に申し入れあったものを、後でもあったものを含めて、調査内容、調査時期等を決めていただければと思います。

○**佐々木玲子委員長** そのほかどうでしょうか。

○**古都宣裕委員** 今工藤委員もおっしゃったとおりのやり方で、例年と同じような形で一回出されるのも結構なのですけれども、そのあとそれが全部本決まりとかという前に、もちろん委員会で一度もんだ上でという話だと思います。

私からは、もし可能であれば現場を見るという意味では、見られるのであればオホーツク流氷館の現場等々も少し見てみたいと思います。

○**佐々木玲子委員長** はい、わかりました。

そのほかはいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特にほかの意見がないようですので、日にちを7月下旬から8月上旬までと考えたいと思っているものですから、工藤委員がおっしゃったような形で、行き先、日にち等を正副委員長か事務局のほうに、議会中の19日までに視察項目等の申し入れをお願いしたいと思います。その後7月1日に委員会を開きまして、内容を皆さんと検討しながら最終決定をしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、そのような形で進めさせていただきます。

○**佐々木玲子委員長** そのほか委員から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で経済建設委員会を終了いたします。

午前10時43分閉会
